浅井君の命名。花は長梗の先端に頭状に多数集まり葉状の苞があり披針状鍼形の蕚の先端には白色の長毛がある。花は径 1 cm 余，青色で美しく一寸観賞用としても悪くない。熱帯アメリカの原産。

(附　記)

ムシトリマンテマ (*Silene antirrhina* L.) の開花時間について。

本誌 **26** 巻第 8 号 (1951 年) に報告したものであるが当時の採集者高橋万之亟氏が東京に移植観察した結果を示されたが，それによると日本に入つたものは明らかに花弁があり，5 月 13 日 (1953 年)に咲きはじめ約 10 日間花が見られたが，夕刻に開花，翌日の午前 9 時頃に萎むという事であつた。

○マツバランとナギの新産地　(日野巌・岡国夫)　Iwao HINO and Kunio OKA: New localities of *Psilotum nudum* and *Podocarpus Nagi*.

正宗博士はマツバランを能登北端に発見し，本誌 **27**: 78 に本種の邦内における詳細な分布図を掲載された。これには中国地方が空白となつているので，ここに周防国大島郡白木村の下田八幡宮及び佐波郡和田村を加える。何れも，老木 (前者はホルトノキ，後者はカエデ) の樹上に僅かに着生している。

ナギは周防国小郡町岩屋が自生北限であり，又，本土に於ける唯一の野生地として天然記念物に指定されているが，我々は今回上記の下田八幡宮社叢にその野生を認めた。この社叢はスダジイ優占種群落で，所によつてはクロガネモチが優勢を示す部分もある。林床にはイズセンリョウ，アリドウシ，テイカカズラが多く，ノシラン，マンリョウ，ホソバカナワラビも多い。ナギは斯様な林床植物の密生する中に高さ 1 m のものが 1 本生えている。附近には親木が少くとも雌雄 2 本はあつたものと想像されるが，最近社叢が大半伐採されたためか，見当らなくなつた。　(山口大学農学部応用植物学研究室)

□知里真志保：**分類アイヌ語辞典**第一巻**植物編**　日本常民文化研究所彙報第 64 号東京 (昭和 28 年 4 月)　アイヌ語に於ける植物名は従来屢々研究し集録された。本誌 24 巻の宮部博士の論文もその一つである。知里氏は既往のものを遙かに凌ぐ多数の植物について，各地で親しく採集し，それを充分にアイヌの生活の中に溶け込ませて解説をしている。エゾヨモギからアオミドロまで 472 種の植物が登場するが，こんなに多数の植物がアイヌの生活に関連していたのかと驚く。更に重大なことはアイヌは植物の利用部分，即ち茎，葉，根，球根，花，果実等の部分に対して夫々名をつけているが，植物そのものには決して名を持たぬという事実に基ずいて，従来の解説の批判をしつつ詳細に述べていることである。発音も二種の記号を用いてアクセント迄写してあり，植物以外の関係語彙と解説や索引をも添える。一部に不親切なところ，たとえばグイマツのアイヌ語 kuy について何等説明がないなどのこともあるが，アイヌ語植物名の決定版とし

てまことに読みごたえがある。かかる基礎的出版物を出された日本常民文化研究所に敬意を表するものである。394頁定価800円. 東京神田，岡書院発売。（前川文夫）

□**Flora URSS.** Vol. **18** (1952)

Vol. 10 (1941) まで輸入された本書は，その後 Vol. 11 (1945), 12 (1946), 13 (1947), 14 (1948), 15 (1949), 16 (1950), 17 (1951) と続刊されている事を知つたが入手困難であつた。最近 Vol. 18 (1952) が入り見る事ができたが，丁度この巻から合瓣花植物が初まりイチヤクソウ科からガガイモ科まで収められていた。体裁その他今迄と同様であり，多くの著者が分担執筆しているためもあつて属や種を大きく見ている所と細分してある所が入り交つている点が目立つた。例えば *Rhododendron, Gentiana, Crawfurdia* などは広義に用いられているが，一方 *Lomotogonium, Anagallidium, Ophelia* は *Swertia* から分離してあり，又 *Cynanchum* 類は細かい属に分けられていて，保留属名に提案されている *Vincetoxicum* Moench の代りに *Antitoxicum* の新名を用いている。ハシドイも *Ligustrina*，バシクルモンは *Trachomitum* として扱われている。種は多くの場合かなり細かく，多少著しい地方的変異はすべて別種と見なされている。樺太，千島で戦後採集された標本も引用されており，南千島に産する種類も含まれ分布地域としては樺太地区として記されている点引用の際注意を要する。千島国後島からコメツツジが報告されている。しかしこの地域のものはまだ標本文献共に不充分の様である。例えばかなりはつきりした特徴をもつカラフトイチヤクソウは *Pyrola minor* に入れられており，*Monotropa uniflora* には *Monotropastrum* が交じり，樺太で *Ligustrum Tschonoskii* と *L. yezoense*, 又 *Gentiana Makinoi* と *G. axilliflora* (誤記) とがならんで載せられている。この地域からの唯一の新種 *Gentiana kurilensis* Grossheim (p. 576 & 750, t. 30, f. 1) は常品より小さい花をもつたカワチリンドウであり，反つて *G. nipponica* として t. 30, f. 3 に図解されているものがカワチリンドウの基準形である。（原　寛）

正誤表 (Errata)　(J. J. B. **29** no. 1. Jan. 1954)

頁 (page)—行 (line)	誤 (For)	正 (Read)
1—7	**異常について**	**異常型について**
1—23	F (a—a′) b	F (a—a′) b′
5—13 & 14; 9—3 & 4; 10—10	*Melilotus altissima*	*Melilotus* sp. シナガワハギの一種
5—15 & 16; 9—6; 10—12	*M. officinalis* 外国種	*M. altissima* セイタカコゴメハギ